



平成28年度 学校だより

緑 柏

長崎県立佐世保南高等学校

No.139 平成28年10月31日発行

発行責任者 松井 裕次

校長室の窓から

南からの「しおかぜ」

校長 松井 裕次

しおかぜ祭

平成28年度長崎県高等学校総合文化祭（しおかぜ祭）が、11月11日からアルカスを中心に開催される。是非、多くの皆様にご来場いただきたい。総文祭は、高校生の文化・芸術活動を県下に広く発表・発信することで、豊かな感性や人間性を育むとともに、高校生の文化活動の一層の振興を図ることを目的としている。

3年前、全国高等学校総合文化祭長崎大会（しおかぜ総文祭）が開催され、全国3,400校、2万人の高校生が長崎に集まった。まさに文化部のインターハイと呼ばれる総文祭を、県下各地の高校生役員が「おもてなしの心」で盛り上げた。特に、生徒自らの手による企画・運営は全国から高い評価を受け、それ以降「長崎方式」と呼ばれるようになった。「しおかぜ総文祭」から、長崎方式を継承する「しおかぜ祭」の総合開会式は、高総体と同様に年毎に開催地区を変えて実施される。今年度は、高文連県北支部のある本校が事務局を担当し、県北地区各高校の生徒会と連携して準備を進めてきた。

しおかぜの吹く道

1月11日の東彼杵総合会館での生徒会サミット。そして年度が改まり、これまで8回の生徒実行委員会を本校で開催してきた。南高は最多の27名。毎回、県北各高校の仲間たち101名が国際交流文化館に集まり、早朝から夕方まで互いに意見を交わし、一つのことを創り上げようという想いでより高みを目指してきた。その集大成が総合開会式である。生徒会サミットから数えること10か月の道のり。生徒実行委員会が「しおかぜ祭」という大家族を産み出すことだろう。

熊本では、県総合文化祭は中止になったが、南高吹奏楽部が高校生の文化活動の交流という形で想いを伝え、被災地を励ましてきた。文化祭で募った義捐金とともに、熊本の人々に深い感銘を残してくれたことだろう。

さて、今年度のしおかぜ祭のテーマは「道」だ。これまで引き継いできた道を継承・発展させ、文化・芸術活動を通して新たな復興への道、未来への道を創造しようという青年の気にうち満ちている。総文祭に参加するすべての生徒の心の中に、たとえ形は違っても、「道」から想起する何かが見つかることだろう。

ボブ・ディランの How many 道

そのしゃがれ声はラジカセで繰り返し聞いた覚えがある。代表曲「Blowing in the wind（風に吹かれて）」は、“How many…”というフレーズが頭に残るが、正直よく聞き取れていなかった。後にピーター・ポール&マリーのカバーを聞いて初めてその歌詞を理解した（実は、福山雅治さんの方がもっと聞きやすい）。

“How many roads must a man walk down before you call him a man?”（一人前と呼ばれるまでにどれだけ沢山の道を歩き回ればいいのか？）という出だしは、今回のテーマ「道」とも通じるものがある。

実行委員はもちろん、1学年は全員、総合開会式に出席することになる。南高生にとっても、本総文祭が高校時代のよき思い出となり、自他ともに心豊かな人生を踏み出す一歩になることを祈念したい。

○桜が丘特別支援学校との交流学習会に参加

10月3日（月）、県立桜が丘特別支援学校にて、同校と本校との交流会が開催され、本校からは1・2年生の家庭部と生徒会のメンバーが参加しました。

参加した本校の生徒たちは多くが春の運動会にも参加させていただいており、この日の交流会を楽しみにしていました。両校生徒の代表挨拶の後、生徒たちはすぐに打ち解けて、午前中は昼食用のカレー作りと記念品作り、昼食をはさんで午後からはレクリエーション（ゴロ卓球）で交流を深めました。

両校は30年の長きにわたって交流を続けており、しかも、1日を通じた交流は本校とだけだそうです。食事や創作活動、レクリエーションの中で生徒たちの弾ける笑顔に接すると、長く続けられてきた理由がおのずとわかります。今後とも、この交流を続けていきたいと実感した一日でした。桜が丘特別支援学校の先生方、生徒のみなさん、大変お世話になりました。



○佐世保特別支援学校文化祭に参加

10月8日（土）、竹辺町の佐世保特別支援学校で開催された高等部文化祭で、本校吹奏楽部が演奏を行いました。すでに数十年来の恒例行事となっていますが、今年度は「Sing Sing Sing」をはじめとする4曲と、アンコールに「宝島」「佐世保特支校歌」を演奏しました。特支の皆さんによる手拍子・踊りも加わり、観客も加わった一つの”音楽”を作り上げた演奏会でした。



○人生の達人セミナー

10月14日（金）、東京より国際経験が豊富な郷農彬子さんをお招きし、「平成28年度心に響く人生の達人セミナー」を実施しました。

郷農さんは、長崎市生まれ。高校途中から東京で育ち、大学卒業後、文部省（現文部科学省）に入省、国連、ユネスコを担当。東京パラリンピック（1964年）での通訳のほか、赤十字でのボランティア通訳・翻訳、NYタイムズ通訳者などに従事、米国・欧州に7年間の滞在経験もあり、国際会議等での通訳、翻訳業務を行う会社を設立、現在も中心となって活躍されている方です。

郷農さんは時折流暢な英語を披露しながら、これまでのボランティアや海外での経験を紹介され、日本人の危機管理の甘さなど海外での心構えについても話されました。そして何より印象深かったのが「小さい頃、父の押しつけで中学レベルの英文と英単語を覚えさせられたが、若い頃のこのちょっとした努力が外国人にも負けない英語力と現在の自分をつくっている。」という話と「自分に付加価値をつける努力を今やるべきである。」というメッセージ。前向きになるきっかけをいただいた一日となりました。



○芸術鑑賞会

10月19日(水)本校体育館で、今年度の芸術鑑賞会を開きました。今年度は『U. S. A. ゴスペルカルテット』のコンサートでした。全校生徒と約20名の保護者の方々の参加を得てのコンサートは、瞬時にしてその歌声に圧倒されました。とても上手な日本語やパフォーマンスも会場をおおいに盛り上げてくれました。中でも『Amazing Grace』や『Oh Happy Day』、そして、M. ジャクソンの曲はよく知られている曲でもあり、感動は大きかったと思います。休憩なしの90分はあっという間に終わりましたが、この感動はいつまでも心に残ることだと思います。



○長崎国際大学通い合宿

10月8日(土)、10日(月)の両日、3年生を対象に「長崎国際大学通い合宿」と称する長崎国際大学での学習会を実施しました。この学習会は、毎年センター試験の会場となることが予想される大学の講義室をお借りして、夏の学習合宿をもう一度思い出し、学習に弾みをつけようという主旨で10年前から実施しているものです。今年もこれまでの先輩たち同様に3年生のほぼ全員が参加し、真剣な表情で学習に取り組んでいました。また質問教室も開講され、内容の濃い学習会でした。センター試験100日前集会を終えたばかりの時期に、学習習慣の立て直しをすることができ、とても良い機会となったと思います。これから生徒一人ひとりが進路を実現できるよう、教員団も最大限の支援をしていこうと考えています。

○センター試験100日前集会

10月5日(水)、台風による影響が心配される中ではありましたが、無事に3年生生徒対象のセンター試験100日前集会を本校体育館で実施しました。今年度は、北九州予備校の有吉 淳氏にご講演をいただき、保護者も15名ほど出席していただきました。「学力アップ」のために必要なこととして重要なことは土台を固めること。そのために必要なことは、①よく寝る ②よく食べる ③よく学ぶ の3つ。これをきちんと実行するための生活のリズムに関する話や授業や模試の復習の大切さなどの具体的なアドバイスをいただきました。生徒たちはこれまでの生活を振り返り、今後の決意を新たにしました。69回生のこれからの飛躍に大いに期待したいと思います。



○佐南オープンデー・学びシェアプログラム

10月17日(月)から10月28日(金)まで、佐南オープンデー・学びシェアプログラム(後期公開授業旬間)を開催しました。南高の授業力向上のため、職員が教科の垣根を越えてお互いの授業を見学し合い、授業研究を行う行事ですが、保護者や地域の方々及び近隣中学校・高校の先生方にも来校していただきました。今後も職員・生徒、気持ちを1つにして、将来の進路目標達成のために努力していきたいです。



○桜馬場バス停の現状○

現在、南高生の約67%がJRやバスなどの公共交通機関を利用して、登下校しています。その際、必ず駅やバス停で乗り降りをしたり、友達と次の電車やバスが来るのを待っていたりしていると思います。南高の近くに「桜馬場」というバス停があります。南高生の多くが利用し、多くの近隣の方々も利用されているこの地域の主要なバスの停留所です。

右の写真は、最近のバス停の様子です。

「この状態、みなさんどう思いますか？」

このバス停を昨年度から女子バレー部、柔道部が部活動の時間や朝自学の前にゴミを回収し、分別までしてきれいにしてくれていました。現在はサッカー部がその役割を引き継いでやっています。



○熊本地震復興支援の募金活動○

9月11日（日）に開催された文化祭において、熊本地震復興支援の募金活動が行われました。活動の中心となった文化祭実行委員は、どうすれば少しでも多くの人々の心に訴えかけることが出来るのかを考え、地震被害の甚大さを伝えるレポートを作成しました。

そうした事前の準備を行った上で、文化祭本番の日も熱心に募金を訴えていた生徒の姿は、多くの人々の心を打ったのではないのでしょうか。

その結果、募金総額は「36000」円となりました。お預かりしたお金は、熊本地震復興支援が目的で開催された「3県交流コンサート」の際に、我が校の吹奏楽部を通して、直接お渡しをして参りました。

今年の文化祭のテーマは、「みなみ ～魅せる 南高魂のWAVE～」でしたが、一人ひとりの想いを募金という名の「波」に変え、熊本まで届けることが出来たのではないかと思います。

最後に、募金活動に理解を示し、ご協力を下さった保護者・地域住民の皆様方にこの場を借りて、心より感謝申し上げます。有難うございました。

○佐世保南高校第19回生寄付金贈呈式

10月23日（日）本校、国際交流文化館外国文化室にて、第19回生（世話人会：松岡秀昭会長）による寄付金贈呈式が行われ、松井裕次学校長、内海和憲同窓会会長に30万円が手渡されました。平成30年度に本校は創立70周年を迎えます。その記念事業のための第1号寄付金として、実行委員会に納めさせていただきました。

今もなお各界の第一線で活躍されている第19回生の皆様は、昭和42年3月に佐世保南高校を御卒業されておられます。卒業後50年の月日が経過した今年、母校発展と子どもたちの教育活動のために寄付金を贈呈したいとの申し出をいただきました。佐世保に集われた同期生105名の方々をはじめご賛同頂いた第19回生の皆さまに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

